第１号

『なんちゅうかたいこどんらちけ』

Ｒ５．９．２０

教員生活も長くなった二人が、全体種目練習をしている生徒たちの様子を見ていた時、口をついて出た言葉です。

練習とはいいながらも誰一人として「だやそうに」やっていません。他人（ひと）に言われなくても周りの様子を見て「次はこう動かなくては」と考えながら行動している様子が伝わってきます。

自分の若いころには体育大会の練習というと、教員の大きな声が、時にはハンドマイクを使って鳴り響くこともありました。きっとその頃の生徒たちも自分たちで考えて行動できたはずですが、教員が生徒を信じて待つことができなかったのだと思います。

今年の体育大会プログラムは生徒が考え、つくり上げたものです。全校で踊るダンスを始め、生徒たちの思いが詰まっています。自分たちでつくり上げたものだからこそ、練習にも気合が入ります。自分たちの力で成功させたいという思いが、他人に言われなくても行動する姿となって表れているのでしょう。

生徒が二人、道具を取りに走っていきました。暑い中、歩いてもよさそうなところを誰に言われるでもなく、走っていきます。表題の言葉はその時出たものです。標準語でいうと、「何という偉い子供たちだろう。」といったところでしょうか。

今週末の土曜日が体育大会。「かたいこどんらち」の躍動する様子をぜひご覧ください。

気が付いたら、昨年度最終号から早半年以上が経っていました。お伝えすることがなかったわけではありませんが、タイミングを逃しました。申し訳ありません。